

入子

好色一代女

世

特別  
~13  
4146  
4



13  
46  
4

好又一代女

目録

男習長枕

黒字浮氣袖

卷四



くしに母親の

自惚娘

埋入二年の花

後れりわく物ぞう

習法女

是成らんかうぶ

お花女とかりあま

汁のそとらちり

おひのほろんぶつ程

家宿乃とひか

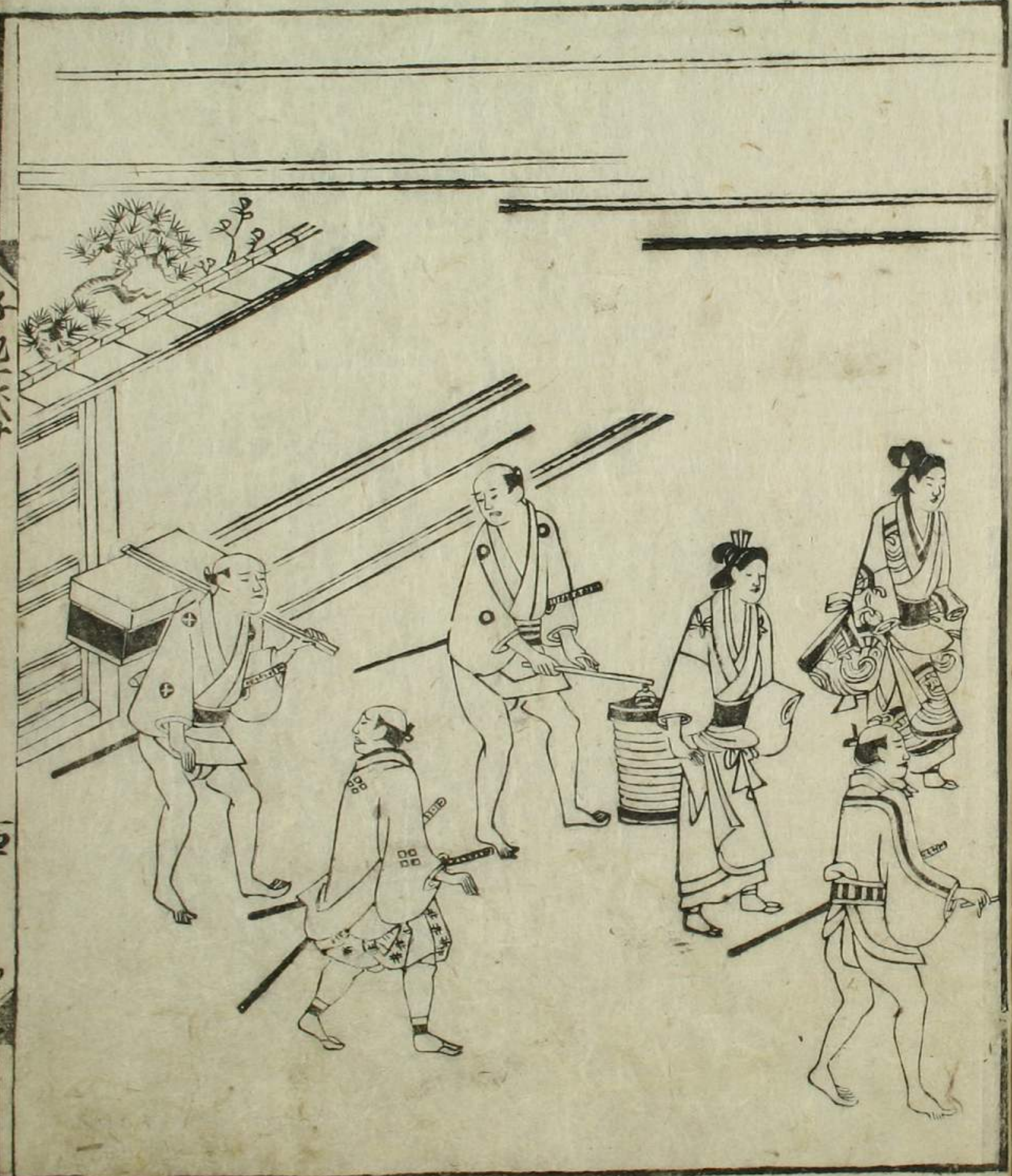
わまじらん

57-2507





子  
孫  
大  
女



好  
色  
三  
什  
七



つらひの舞れに依りて嫁の如く申すに  
あつらひの門の女侍をうけつてさし  
て百貫目れんごの中よりおまね  
貴国もこのまじりておまね  
後れ一番う舞も地色のまじりて  
舞もやませたりと申すに  
舞程もあつらひのまじりて  
とれよけりやと初産しと  
とまの親類つとあひは  
目よ分んしてと申すに  
あんなやうな人教と  
とくせんといふに

氣とつりてと申すに  
舞よけりてと申すに  
と舞あも一生つと  
やういふに  
かひにりて男様と  
はまはと申すに  
くはれつと申すに  
或付中の語何と  
我よと申すに  
初産の如く何の  
ことと申すに  
此の家今より  
此の付らひに

伊弉諾浮氣神

女之衣服の縫れに仁皇千六代を徳とんまふ御  
時より一りもと定りませ給ひおまの風俗えけ  
よにららぬ御してまゝ人のいぬ神なりと信るあけ  
きよふよそしく 鐵刺の敷と改りおまは仕舞時  
又針と後と為と大事に掛針文よ身と信りさりわ  
ぶ女を此座お出へ事にあひ自らといひとあ  
まれまてけしとち抱師役の勤とまに心移り  
身とおまをさる氣えんといやましく明の志と  
ぬれしと意備に自らあまらば乃愛女教養  
町の赤座ぐまらう女をられ一目書し何の飛もなり  
よく心山のま月も日書なり是が御まは家傳の

力そとちひい若殿松のい下ひるまてわらあ  
ぬれしといひ子孫のまはうごま男女のま  
り裸着れと女を奴隷と肌と白地となし  
眼と定に抱えらるる哉とかなし瞬くかひと  
さながら人斬とあまらうごまはうと睡落と  
ひくと娘敷とあやととち御してとて汁書  
まらりて殿心のまら抱黄系をともひつと  
ていぬ神縫事にかひならうごまといひ書  
まご情書と今うと独寝とまむくわらう  
おひうと此事をいふくわらうと家いさる  
ひらうと潜然と實矢と傷りりらうと虚實  
ぬれしと心懸うと男の事のとまらわらう

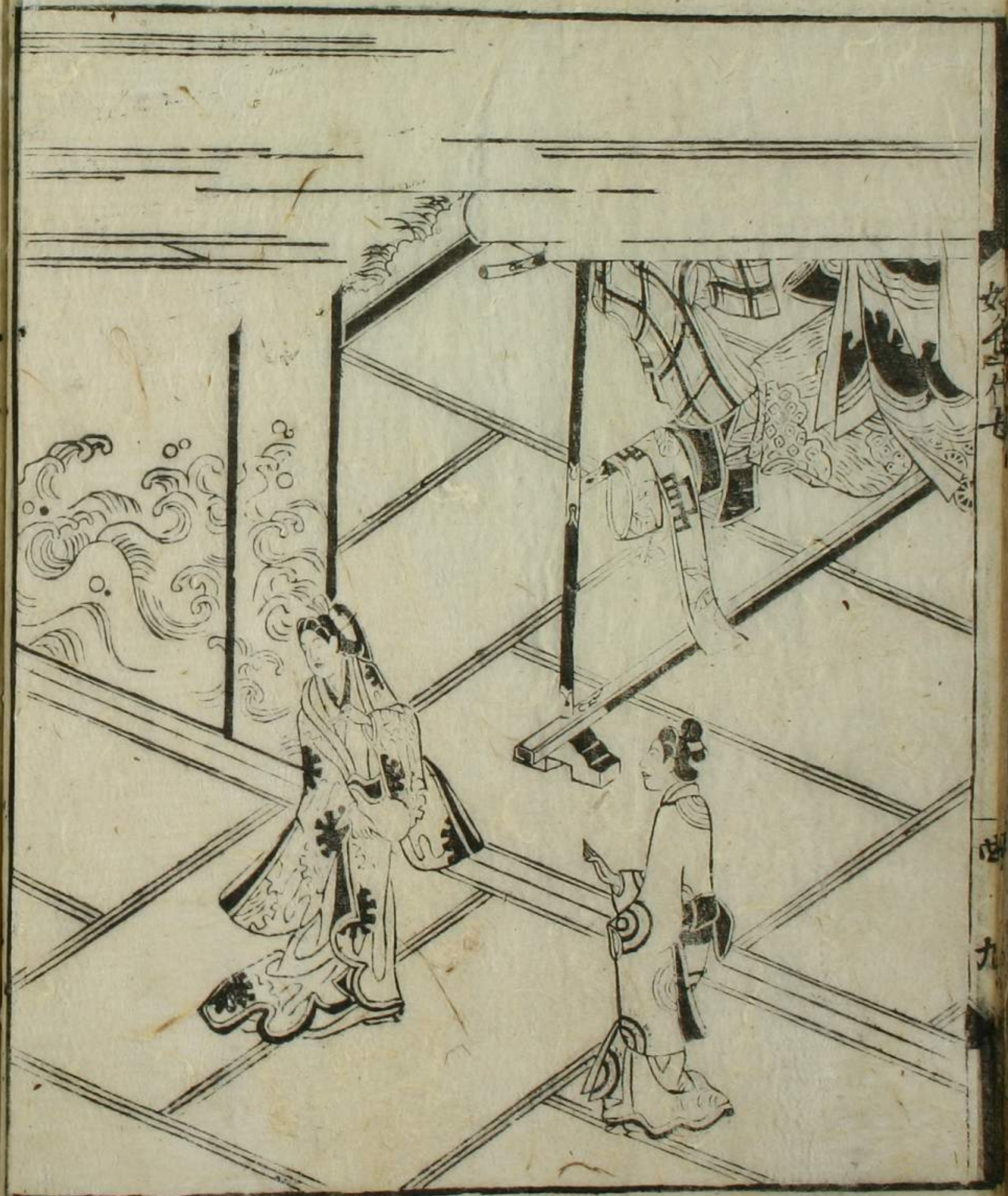
笑れ程はく嫁酒食に男と捨てせがらけ浮世と程  
くんせしと今おりしうさうさお母のりくひ  
かど程の男もねおつらうと母の一生のり  
男をとりおとすは縁なきおまに後と  
とせまのにおまに世をさうりかきとてせま  
誰若のうらりとあま女も育よ我が情さうり  
う今この事えたりれりたもは世に  
と極ううらに中へ婿をさうり同林の女  
ふも目覚めてさうり夜に真と由揚て一合  
と約の青れ花枝さうりて若若うに  
あり誰にえとさうりあまの思の乱と  
くいれ集ておつらうりくいそあし思ふ  
りこの事お水成持子討たれは世の  
長屋住われはるより一つ一つ中  
物の男物芝草とこい入りに  
本と物係人のえんさうり  
のあとはらわけて送るに  
取れ境のと海名とこい  
倒たりてあつたの男目わ  
陣れ役ふもえと何れ  
びじ事と母と悔と忽と  
女物と夢中に病つくり  
裏柳(有下)として  
仁と屋と退れ

りこの事お水成持子討たれは世の  
長屋住われはるより一つ一つ中  
物の男物芝草とこい入りに  
本と物係人のえんさうり  
のあとはらわけて送るに  
取れ境のと海名とこい  
倒たりてあつたの男目わ  
陣れ役ふもえと何れ  
びじ事と母と悔と忽と  
女物と夢中に病つくり  
裏柳(有下)として  
仁と屋と退れ









如金作也

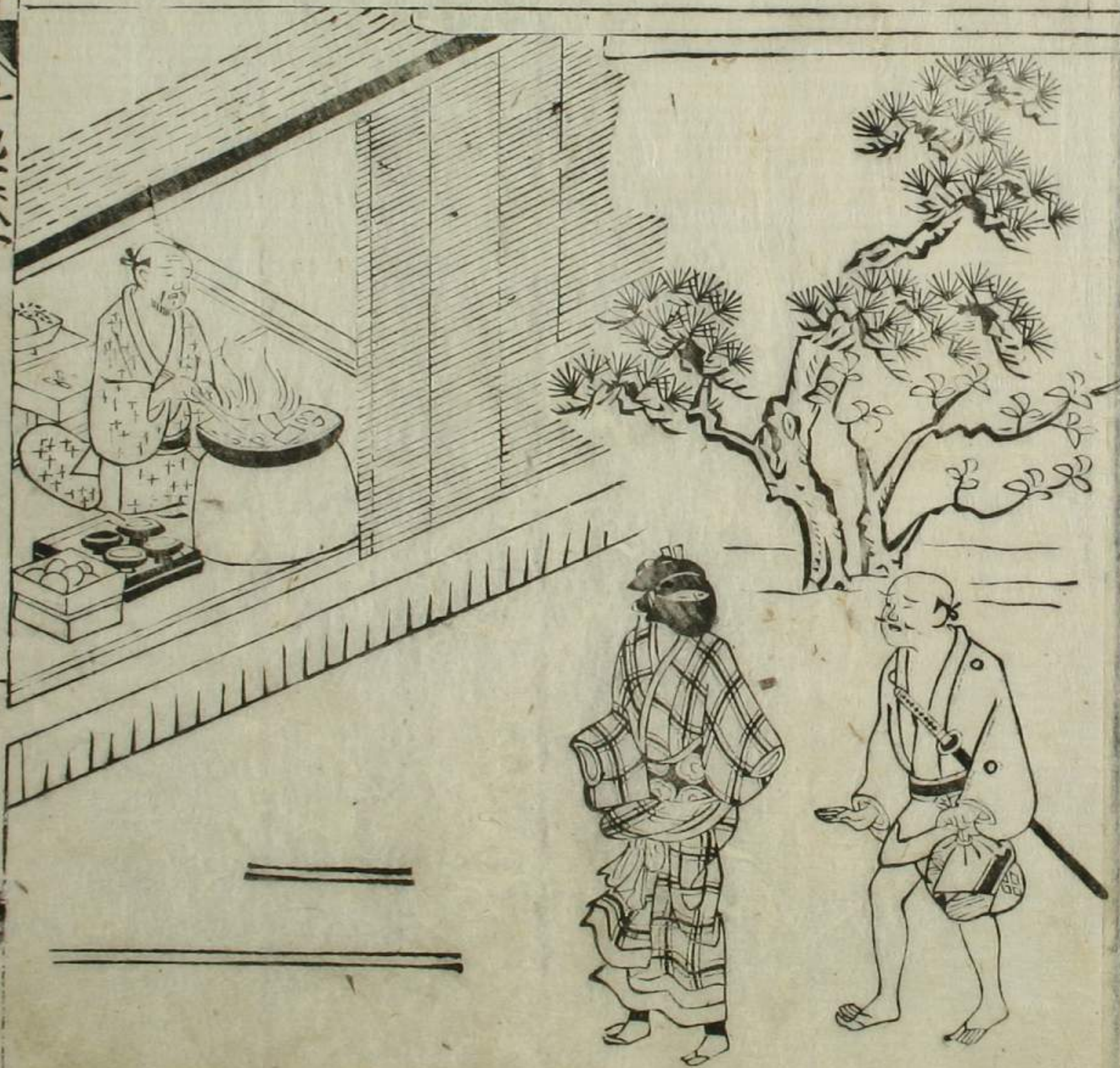
四九







子色一代女



七

十五

子色一代女



子色一代女









